



秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査結果について

アンケート調査概要

1 調査目的

平成28年度に策定する第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の基礎資料として、市民の行政ニーズや高齢者福祉施策への評価等を把握するため、市民意識調査を実施する。

2 調査項目

- (1) 公共交通機関、屋外環境について
- (2) 住環境について
- (3) 年齢を重ねることについて
- (4) 情報の入手について
- (5) 医療・福祉について
- (6) 地域活動について
- (7) 社会参加について
- (8) 就労について
- (9) 暮らしについて

3 調査方法

- | | |
|-----------|------------------------|
| (1) 対象者 | 20歳以上の市民3,000人（無作為抽出） |
| (2) 調査方法 | 郵送による無記名アンケート |
| (3) 調査期間 | 平成27年12月18日～平成28年1月15日 |
| (4) 有効回答数 | 1,796件（有効回答率 59.9%） |

アンケート調査結果総括

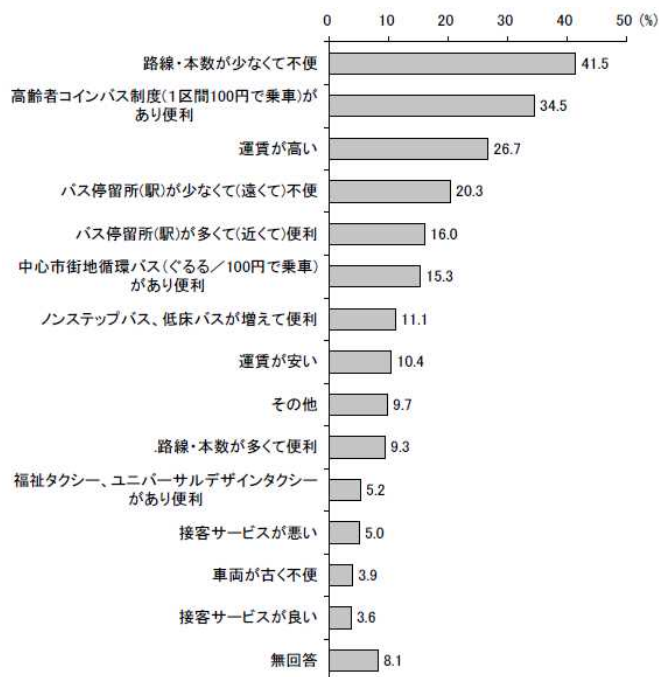
(1) 公共交通機関、屋外環境について

市内移動時のバス、電車、タクシーの利用状況については、「年に数回しか利用しない」が最も高いが、75～84歳の年齢層では、月に1～2回以上利用しているとの回答が5割を超えるなど、高齢者が外出するための手段として公共交通機関に対する依存度が高いことがわかる。

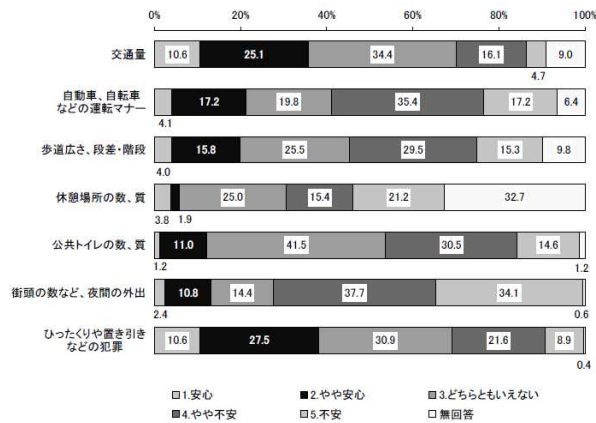
公共交通機関については、路線、本数の少なさに不便を感じている回答や運賃が高いとの回答が多い。また、高齢者コインバス制度を評価している回答が多く、70～84歳の年齢層では、3分の2以上が便利としている。



問7 市内移動時の公共交通機関の利用状況 (P15 ※報告書ページ、以下同じ)



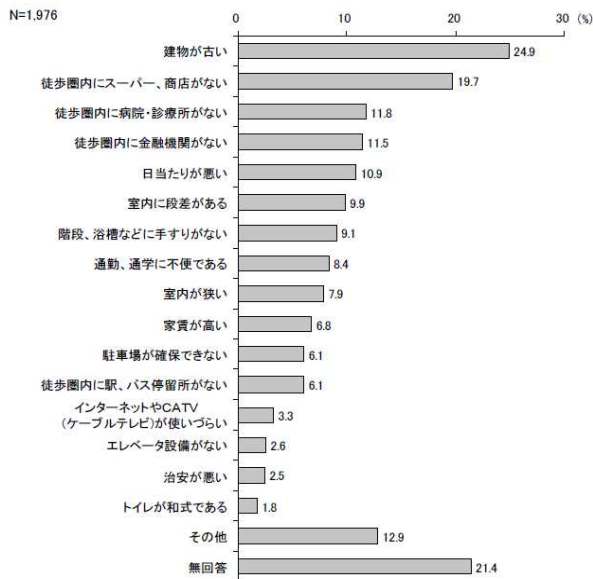
問8 公共交通機関について思うこと (P19)



問9 外出時に安心できているか (P 2 2)

外出時の安心については、「安心」と「やや安心」を合わせた回答で5割を超えたものはない。安心としている回答が不安としている回答よりも高い項目は、「交通量」と「ひったくり等の犯罪」であるが、一方、街灯の少なさや夜間の外出に不安を感じる割合が高い。

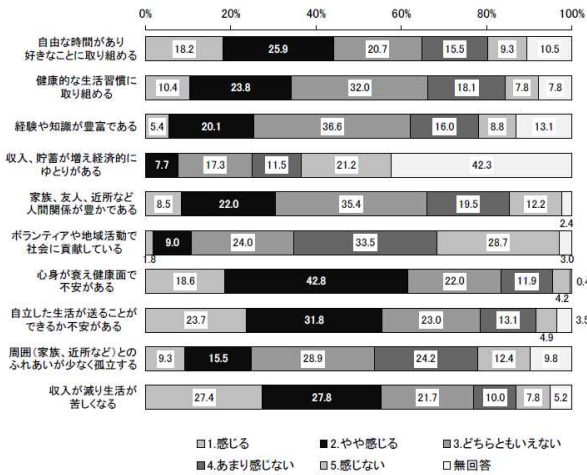
(2) 住環境について



問11 住環境の不満や不便について (P 3 9)

住環境に対しては、建物の古さに対する不満等が一番高かったが、次いで徒歩圏内に生活に必要な商店等がないことが挙げられた。特に年齢が高くなるほど、徒歩圏内に必要な商店等がないことに不便を感じる傾向が見られた。

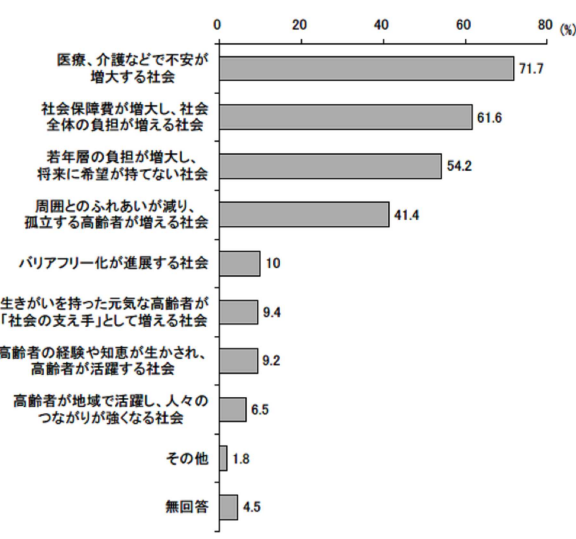
(3) 年齢を重ねることについて



自由な時間があり好きなことに取り組めると感じる一方で、健康や経済面に不安を感じていることが分かる。孤立すると考えている回答は多くない。また、地域活動やボランティアなど他者との関係を外に積極的に持とうとするイメージは少ない。年代別に見た場合、年齢が高くなるにしたがって自立した生活への不安が高くなる傾向があった。

問12 年齢を重ねることについて感じること (P 4 2)

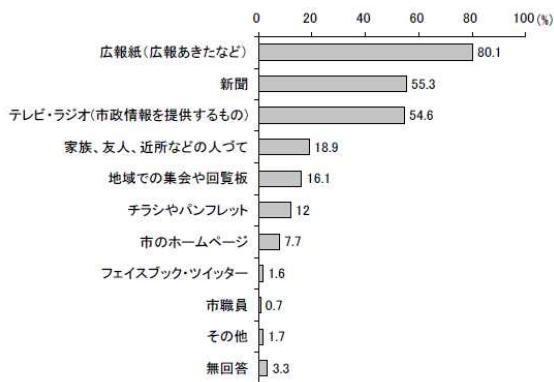
○高齢化が進んだ社会について



どの年代においても、マイナスイメージ強い。プラスイメージは全てが10ポイント以下であった。

問13 高齢化が進んだ社会 (P 7 6)

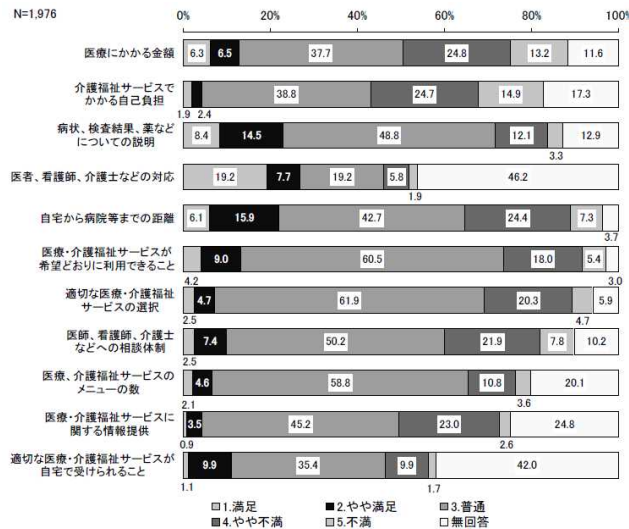
(4) 情報の入手について



情報の主な入手先としては、年代を問わず広報紙が非常に高く(80.1%)、次いで新聞、テレビ・ラジオ等がともに5割を超えている。一方で地域からの情報入手が2割弱と少ないほか、ホームページも1割に満たない結果であった。

問14 市政情報の主な入手先 (P 8 1)

(5) 医療・福祉について

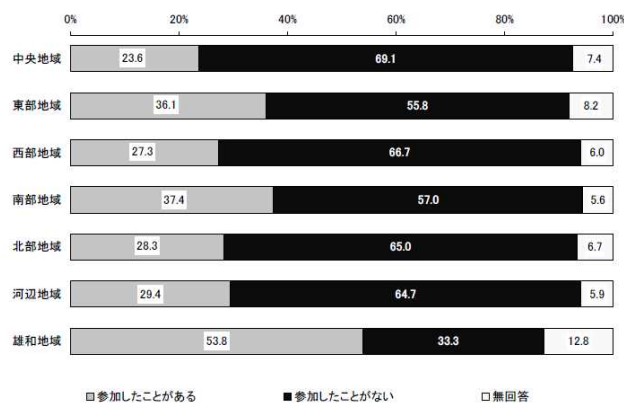


無回答を除き、普通との回答割合が最も多かった。

満足とやや満足を合わせて2割を超えるのは、「医者、看護師等の対応」、「病状、検査結果等についての説明」、「病院等までの距離」の3項目のみで、その他の項目では1割前後であった。

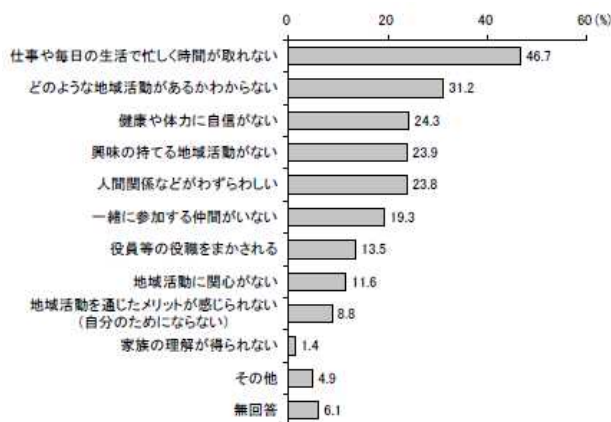
問17 医療・介護福祉サービス利用時の満足度（P 8 9）

(6) 地域活動について



男女ともに「参加したことがある」が約3割、「参加したことがない」が約6割となっている。地域別に見ると、雄和が5割を超えているほか、次いで東部と南部で3割を超えている。最も低いのが中央の23.6%であった。年代別では、高齢者に「参加したことがある」との回答が多い。

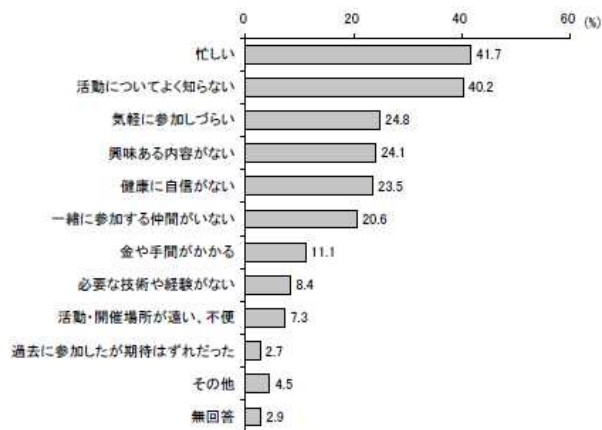
問18 地域活動への参加（P 1 0 9）



地域活動への参加で支障になることについては、「忙しくて時間が取れない」が約5割と最も高く、次いで「どのような活動があるかわからない」、「健康や体力に自信がない」が続く結果となった。年代別では、若い年代ほど時間が取れない、どのようなものがあるかわからないが多く、年齢が高くなるほど健康や体力に自信がないを選択する場面が多くなった。

問21 地域活動に参加するとき支障になること（P 1 1 7）

(7) 社会参加について

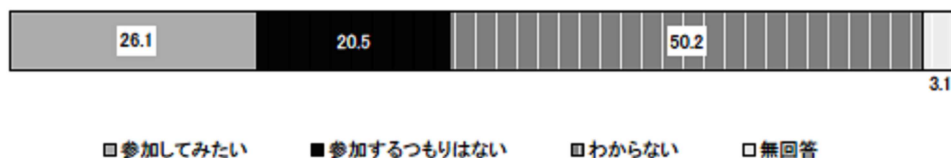


男女ともに「参加したことがある」が約3割、「参加したことがない」が約6割となっている。参加しなかった理由では、「忙しい」が最も高く、次いで、「活動についてよく知らない」、「気軽に参加しづらい」、「興味ある内容がない」、「健康に自信がない」、「一緒に参加する仲間がいない」が20%を超えている。

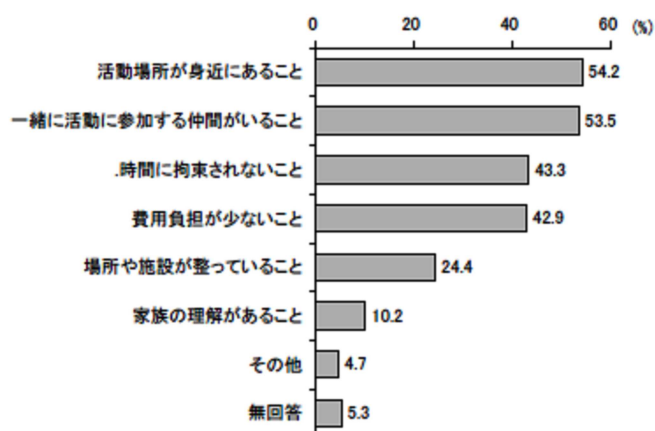
問24 社会活動に参加しない理由 (P 1 2 7)

参加したことがないという回答のうち、4分の1が条件がそろえば参加してみたいと回答しており、そのための条件は、身近で気軽に気の合う仲間とお金をかけずに活動したいという思いが読み取れる。

年代別の条件としては、若い世代は「費用」、現役世代は「時間」、高齢世代は「身近さ」を重視していることがわかる。なお、参加する仲間は年代を問わず重要視している。

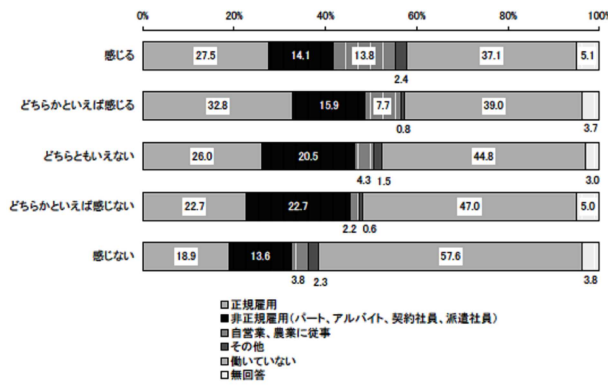


問25 参加への意向 (P 1 3 0)



問26 参加の条件 (P 1 3 3)

(8) 就労について



問27(就労状況)×問29(生きがい)のクロス集計 (P 1 3 9)

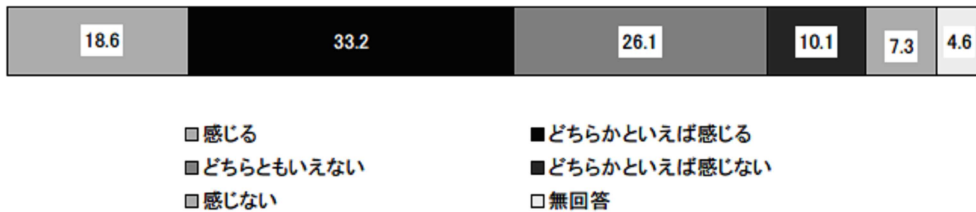
男女差が大きく「正規雇用」では男性が42.0%、女性が16.1%で、一方「働いていない」では、男性が30.5%、女性が50.0%であった。

なお、非正規雇用（パート、アルバイト等）の年齢別では60～64歳で29.4%と最も高かった。

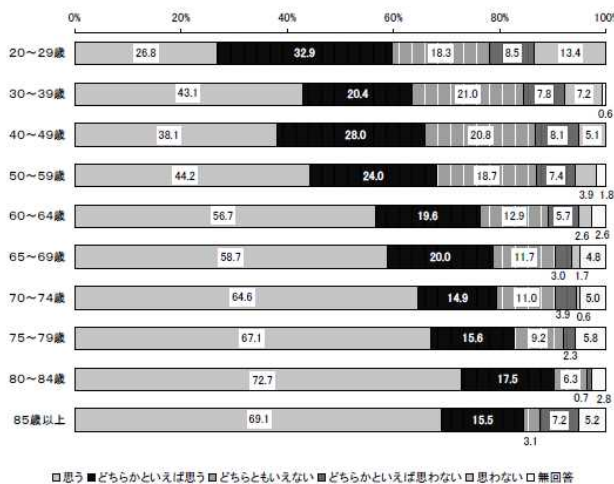
「正規雇用」の方が生きがいを感じる割合が高く、一方「働いていない」では生きがいを感じる割合が低い。

(9) 暮らしについて

生きがいを持っていきいきと自分らしく暮らしていると感じている市民は5割を超えており、年代別な傾向は見られない。

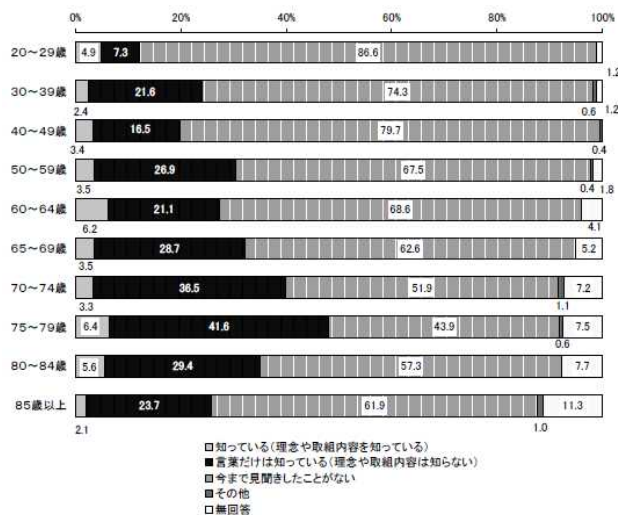


問29 生きがいをもっていきいきと自分らしく暮らしているか (P 1 4 3)



問30 秋田市に今後も住みたいか (P 1 4 7)

秋田市に今後も住みたいかとの問いについて、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた割合が7割を超えている。若い世代ほど低く、年代が上がるにつれて高くなる傾向がある。



また、エイジフレンドリーシティの認知度については、「知っている」が4.1%、「言葉だけは知っている」が26.0%、「今まで見聞きしたことがない」が65.1%であった。

年代別に見ると、80歳未満までは概ね年代が上がるにつれて認知度が高くなっている。

問33 エイジフレンドリーシティの認知度 (P 1 5 7)